

「レポートの書き方」を「レポート」する**教育学部助教授 幼児教育 西田忠男**

これを読んでいる学生の皆さんは、すでにいろいろな授業でレポートの提出を求められた経験があると思います。例えば、「近代経済学における Risk と Return という概念の成立過程について説明しなさい」とか、「中世農村社会におけるシャーマニズムの役割について述べなさい」とか「ベンツとGMの合併問題を独占禁止法の視点から論じなさい」とか。

さて、このようなレポート課題が出された時、あなたは、まず、何を考えますか。

第一に、この「テーマ」と「授業」との相互関係が分からないといけませんね。すなわち、どういう脈絡でこの「テーマ」が出されたのか、授業の中でのこの「テーマ」の位置づけはどういうことなのかを正しく認識する必要があります。えっ？そんなことは当然分かっています！って。では、このレポートの出題意図（何が求められているか、何を書かなければいけないか）は一応理解できているものとして話を進めましょう。

ということで、ここから具体的な作業を始めることになります。

まず、頭の中と論点を整理するために、ノートなり、テキストなりの関係ありそうな部分を読み返します。自分のノートであるにもかかわらず、書いてあることがまるで分からないということがあるかも知れません。では、よく分からない部分や言葉、そしてキーになりそうな言葉の意味を調べましょう。「Risk」に「シャーマン」に「独禁法」に…。普通、ここでは、経済学とか社会学とか法律学の専門辞書・辞典類あるいは概説書などを開いてみます。

そんな辞典や本などは持ってない？ 置いてあるところへ行って調べてください。

さあ、いよいよ図書館の出番です。（やっと図書館という文字が出てきました。そうです、これは図書館機関誌用原稿なのです「ふっ」）

次に、参考になりそうな本を探しましょう。目録ケースの前に立って、あ「愛するということ」い「イモ焼酎の構造」う「ウルトラマンの誕生」え「エロスの文明」…。ちょっと違いますね。あいうえお順でうまくいかなかったら、

ABC順ではどうでしょう。A「アメリカンマインドの終焉」B「ビジネススクールにて」C「シティーホテルの歴史」…。どうも違うようです。ここでは、文明の利器コンピュータを使って図書検索をしてみればよいと思います。コンピュータは図書館の一階と二階にあります。あるいは皆さんの所属研究室にあるインターネットパソコンを使ってみましょう。

スイッチオン。図書館の画面が出ましたか？それ以外の画面はパスしてください。図書館メニューから「蔵書検索（OPAC）」を選びます。そして「キーワード」を入力します。ちなみに「リスク」と入力すると32冊ほどリストアップされました。さあ頑張って32冊全部読もう、というわけにはいきませんので、さらにこのリストの中から関係ありそうな本を何冊か選ぼうけです。「成人病の…」「化学物質の…」ちょっと関係なさそうですね。「危険と保険…」「デリバティブ…」このあたりかな。

ところで、手に入れたいこの本はいったいどこにあるの？

では「デリバティブ…」をクリックしてみましょう。「図書館開架」と表示されています。ということは、図書館内の本棚のどこかにあるわけですね。さあ探しに行きましょう。よく分からなければ、図書館職員の人に聞いてください。この調子であと四～五冊。そうそうCD-ROMでの雑誌記事検索という手もありますね。ここまでくると芋づる式に面白そうな資料が見つかります。

下宿の勉強机兼用の炬燵の上には、レポートを上手に書き上げるための素材がどっさりと揃いました。どう料理するかは、あなたの腕次第です。では頑張って下さい。

以上、経済学にも、社会学にも、法律学にも、図書館学にも無縁な西田が勝手にレポートしました。少しでも役に立ちましたか。

えっ？何？「レポートの書き方」について参考になる本はどこにあるかって？

それを図書館で探し出すのが君の仕事だっけうーの！

（にしだ ただお）